住まいと健康　フォーラムニュース
発行者：住まいと健康フォーラム事務局　第７３号
〒351-0197 埼玉県和光市南２－３－６　国立保健医療科学院　2016.5.10.
TEL　048-458-6249　FAX　048-458-6253

熊本地震で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。一日も早い復旧を果たされ、平穏な日々を取り戻されることをお祈りいたします。

2016年『住まいと健康フォーラム』総会及び全国フォーラム開催のお知らせ

日時　　２０１６年６月３日（金）
総会　　午後１時３０分～２時
全国フォーラム　　午後２時～５時

場所　国立保健医療科学院
（埼玉県和光市南２－３－６）

テーマ　「住宅性能の変遷と健康課題」

☆　報告：

１）　住宅性能の変遷（断熱気密化と室内環境）
林　基哉（国立保健医療科学院）

２）　室内環境と健康影響（温熱空気環境）
開原　典子（国立保健医療科学院）

☆　グループワーク

環境衛生の基礎となる住宅の室内環境は、近年の建築技術の進歩や省エネルギー法などに伴って、より快適な状況になると期待されています。しかし一方で、新しい住宅の気密化や冷房依存などの生活スタイルの変化に伴う換気不足と室内空気汚染が懸念されています。また、都市環境の悪化などに伴って、既存住宅においても生活スタイルが閉鎖的になるなどの変化が見られ、熱中症や湿気に伴う様々な健康影響も憂慮されます。現在と今後の室内環境に起因する健康課題について、住宅性能の変遷を軸に議論します。

皆さんの多数のご参加をお願いいたします。なお、会員以外の方の参加も歓迎します。周囲の方にお知らせして、お誘い合わせてお越しください。

書 籍 紹 介

住まいと健康フォーラムの会員、関係者の著作を紹介します。

フォーラムでの販売等の取り扱いは行いませんので、直接出版元へのお問い合わせをお願いいたします。

ブックレット『レジオネラ症対策の手引き』

文京区文京保健所　中臣　昌広　さん　著

２０１３年１０月　　５００円＋税

一般財団法人日本環境衛生センター　発行

読み終わって感じることは、ブックレットでありながら、章ごとの趣が大きく変わり、いろいろな輝きを映す本だなあ、ということでした。

第１章はレジオネラ症の基礎的知識をわかりやすく説明しています。レジオネラの関係書籍はこの部分が専門的で、かつボリュームが多すぎて、一般の方にはなかなか読みにくいようです。その点、本書は平易な文章とともに、効果的に図表や写真、コラムを組み合わせて、読みやすく仕上げてあります。

第２章では実際の衛生管理の方法が、ていねいに説明されていきます。衛生管理の解説では、どうしても数字が多く出てきてしまい、興味を持続できないという声もありますが、このあたりの説明が特にきめ細かく配慮されており、数字嫌いの人にも、十分理解できるように工夫されています。また作業費用などの、管理者が特に知りたい内容についても、きちんと記されています。

そして第３章は、今までとうって変わり、たたみかけるような展開で事件が語られます。一つひとつの事例への対応がいきいきと描かれ、引き込まれます。レジオネラ症の患者が出た公衆浴場の経営者と、その指導にあたる保健所の監視員が、問題に立ち向かう姿が胸を打ちます。レジオネラ症患者を出さないための、著者の熱意が一文一文から感じられます。

レジオネラ属菌の検査で陽性となった施設の原因追及は、ミステリーの謎解きのようでもあります。文京区が積極的に取り組んでいるシャワー水の衛生管理など、様々な事例が紹介されています。

事例に遭遇した時の、著者が経験者に意見を聞くくだりや、行政指導をしながらも公衆浴場の経営者に敬意を払う姿勢も参考になります。最終的に、消毒設備の設置への助成制度の構築という、区の施策に反映させた手腕にも感心させられます。

パンフレットでは不十分ですが、専門書では難しすぎてしまうレジオネラの問題について、誰もが近づける入口として、本書はとても価値のある本と言えます。

価格も安価に設定されていて、非常にお得です。環境衛生監視員はもちろんですが公衆浴場経営者へのお勧めです。

なお、本書は国立感染症研究所　主任研究官の倉　文明氏の監修によっています。

ブックレット『知っておきたい　新公衆衛生』

２０１５年３月　　１０００円＋税

一般財団法人日本環境衛生センター　発行

公衆衛生の概念は、範囲が非常に大きく、医療・保健・衛生、場合によっては福祉の領域まで関係が広がります。公衆衛生学会に行ってみると、その幅広さに驚かされます。

環境衛生監視員は、その中の環境衛生分野を受け持っているわけですが、公衆衛生の参考書を探そうとすると、その大きすぎる全体像を表すものか、各論を述べるものかのどちらかに分かれてしまい、公衆衛生の中の環境衛生が浮かび上がって見える、適切な参考図書に出会うことは難しいと思っていました。

公衆衛生研究の中心機関である、国立保健医療科学院の研究者の方々を中心に、各方面の専門家が、日本環境衛生センター発行の月刊誌「生活と環境」に「新公衆衛生概論」と題した連載がなされました。

この連載に修正や追加が加えられたものが、今回ブックレット「知っておきたい　新公衆衛生」として、発行されました。

第１章では新公衆衛生概論として、日本の公衆衛生の現状やソーシャルキャピタルと今後の公衆衛生、公衆衛生リスクなどの概論と。飲料水やペストコントロール、ごみとし尿などの環境衛生の基礎的な課題が解説されています。

第２章以降は、建築物衛生や環境衛生関係営業施設の管理、たばこや放射線などの環境衛生の現在の課題が詳しく解説されています。

環境衛生の範囲を、きちんとまとめた参考書は、あまりないように思いますが、このブックレットはまさに監視員が必要な情報が、過不足なく掲載されている点が素晴らしいと思います。

執筆者は国立保健医療科学院の研究者の方々をはじめ、国立環境研究所や国立感染症研究所、日本環境衛生センター及び大学の第一線の研究者の方々が担当されており、信頼できる価値の高い知識が満載です。

ブックレットなので手元に置いてすぐ確認できる資料としても活用できます。これだけの専門性のある内容ですが、安価に購入できることもありがたいことです。保健所に１冊置かれることをお勧めします。

『都心の生物　博物画と観察録』

港区みなと保健所　中野　敬一　さん　著

２０１５年７月　　１８００円＋税

株式会社　本の泉社　発行

博物画とは、植物や動物などの観察対象の姿を詳細に記録するために描かれる絵のことです。

著者は虫の研究者として、衛生動物学会等に数多くの発表をしていますが、今回植物や虫の博物画と、今までの観察録をまとめた本書を発行されました。

手にすると、まずカバーからその絵の美しさに目を見張ります。中を見ると、最初の方は植物を描いた博物画の見事なことに、また驚かされます。ハルノノゲシ、カラスノエンドウなど、一つひとつの博物画が写真とは全く違った温かい魅力を示します。その観察力と描写力に圧倒されます。

その力は、その後に続く虫を描く博物画で、なお一層の際立ちを見せます。虫はこんなにきれいなのかと、改めて感じさせます。自然の造形の美しさを感じるとともに、それが写真ではなく、描かれていることに心が動かされます。

しかしこの本のすごさは、博物画だけではありません。読み進んでいくと、著者が生まれ育った港区のフィールドで、コツコツと虫の調査を進めてきたことの成果があふれています。

今でこそ感染症媒介蚊の話題がでますが、この本で語られるのはなんと平成12年、今から15年も前からの蚊の調査の結果です。アメリカのウエストナイル熱の発生を受け、オビトラップやライトトラップ、人囮法などで実際に蚊を捕獲してきた結果と考察が、ていねいにまとめあげられています。調査は蚊だけではなく多岐にわたり、どれも興味深いものばかりです。

ぜひ一度現物を手に取り、ページをめくっていただきたい書籍です。

（書籍紹介文責：港区みなと保健所　五味　TEL03-6400-0043）

事務局
〒351-0197　埼玉県和光市南2－3－6
国立保健医療科学院　阪東美智子
TEL 048－458－6249 FAX 048－458－6253
事務局不在のときが多いので、ご連絡はFAXでお願いします。